

2025

(2021年度以前の入学生用)

シラバス



Nagano College of Nursing

授業科目一覧 (平成30年度、令和2・3年度入学生)

1. 必修科目及び選択必修科目

学年	前 学 期				後 学 期				
	科目番号	科 目	単位数	時間数	科目番号	科 目	単位数	時間数	
1 学 年	必 修 科 目	6113	生物学	1	30	6101	倫理学	1	15
		6114	化学	1	30	6109	家族社会学	1	15
		6116	運動実技・理論 I	1	30	6202	医療英文読解演習 I	1	30
		6121	統計学	1	15	6206	医療英会話の基礎 I	1	30
		6201	英文読解の基礎	1	15	6304	生化学	1	30
		6205	英会話の基礎	1	30	6305	人体の構造と機能演習	1	30
		6302	人体の構造と機能 I	2	30	6306	フィジカルアセスメント	1	30
		6303	人体の構造と機能 II	1	30	6307	病理学	1	15
		6401	看護学概論	2	30	6312	薬理学	2	30
		6404	基礎看護方法 I	1	30	6315	病理学演習	1	30
		6501	基礎看護実習 I	1	45	6405	基礎看護方法 II	2	60
		6605	保健・医療・福祉システム看護論 I	1	15	6416	人間発達論	1	15
		6608	情報処理科学	1	30	6444	人間関係論	1	30
		選 択 必 修 科 目	6120	教育学	2	30	6601	公衆衛生学	1
6606	保健・医療・福祉システム看護論 II						1	15	
6107	教育心理学	2	30						
学年	前 学 期				後 学 期				
	科目番号	科 目	単位数	時間数	科目番号	科 目	単位数	時間数	
2 学 年	必 修 科 目	6106	臨床心理学	1	30	6117	運動実技・理論 II	1	30
		6203	医療英文読解演習 II	1	30	6316	感染学演習	1	30
		6207	医療英会話の基礎 II	1	30	6410	慢性期看護方法	2	60
		6308	疾病学 I	1	30	6411	急性期看護概論	1	15
		6309	疾病学 II	1	30	6414	老年看護方法 I	1	30
		6310	感染学	1	30	6418	精神看護概論 II	1	15
		6406	看護過程の理論と展開	1	15	6421	母性看護方法 I	1	30
		6409	慢性期看護概論	1	15	6429	小児看護概論 II	1	15
		6413	老年看護概論	2	30	6430	小児看護方法 I	1	30
		6417	精神看護概論 I	1	15	6433	地域看護方法 I	1	30
		6420	母性看護概論	1	15	6435	家族援助論	1	15
		6428	小児看護概論 I	1	15	6440	在宅ケア方法 I	1	30
		6432	地域看護概論	1	15	6446	多文化共生看護学	2	30
		6436	在宅ケア論	1	15	6502	基礎看護実習 II	2	90
6602	疫学	1	30						

学年	前 学 期					後 学 期						
	科目番号	科 目	単位数	時間数	貢	科目番号	科 目	単位数	時間数	貢		
3 学 年	必 修 科 目	6122	医療経済学	1	15		6301	遺伝と人間	1	15	6	
		6313	看護栄養学	1	15		6402	看護倫理	1	15	8	
		6314	症状マネジメント論	1	15		6504	成人看護実習	[4	180]	10	
		6412	急性期看護方法	2	60		6505	老年看護実習	[4	180]	11	
		6415	老年看護方法Ⅱ	1	30		6506	精神看護実習	[3	135]	13	
		6419	精神看護方法	2	60		6507	母性看護実習	[2	90]	15	
		6422	母性看護方法Ⅱ	1	30		6508	小児看護実習	[3	135]	17	
		6431	小児看護方法Ⅱ	1	30		6509	地域看護実習	[4	180]	19	
		6434	地域看護方法Ⅱ	1	30		6513	在宅看護実習	[2	90]	21	
		6439	災害看護論	1	30		6701	看護研究方法	1	30	24	
		6441	在宅ケア方法Ⅱ	1	30							
		6604	保健統計学	1	15							
		6607	保健・医療・福祉システム看護論Ⅲ	1	15							
		選 択 必 修 科 目	6208	英会話演習	1	30						
			6209	英語文化研究	1	30						
	学年	前 学 期					後 学 期					
科目番号		科 目	単位数	時間数	貢	科目番号	科 目	単位数	時間数	貢		
4 学 年	必 修 科 目	6438	看護管理論	1	15	27	6703	卒業研究	4	180	31	
		6504	成人看護実習	[4	180]	10						
		6505	老年看護実習	[4	180]	11						
		6506	精神看護実習	[3	135]	13						
		6507	母性看護実習	[2	90]	15						
		6508	小児看護実習	[3	135]	17						
		6509	地域看護実習	[4	180]	19						
		6513	在宅看護実習	[2	90]	21						
		6511	看護統合実習	[2	90]	29						
		6703	卒業研究(継続)			31						
合 計	必 修 科 目		83科目			112単位		3,270時間				
	選 択 必 修 科 目		4 科 目			6 単 位		120時間				

備 考

1. 選択必修科目は、次のとおり履修すること。
 - 1) 教育学または教育心理学のどちらかを履修し、2単位を修得すること。
 - 2) 英会話演習または英語文化研究のどちらかを履修し、1単位を修得すること。
2. 成人看護実習、老年看護実習、精神看護実習、母性看護実習、小児看護実習、地域看護実習及び在宅看護実習は、提示される実習計画により、3年後学期または4年前学期に履修すること。

2. 選択科目

平成30年度、令和2・3年度入学生

科目番号	科 目	単位数	時間数	貢	開 講 時 期
6105	コミュニケーション論	1	15		1年・前学期
6108	心理学	2	30		1年・前学期
6110	社会学	2	30		1年・前学期
6126	数の話と教養数学	1	15		1年・前学期
6112	信州学	1	15		1年・前学期
6211	独語	1	15		1年・後学期
6115	生命科学演習	1	30		1年・後学期
6103	哲学	2	30		2年・前学期
6111	文化人類学	2	30		2年・前学期
6123	経済学	2	30		2年・前学期
6127	人間工学	2	30		2年・前学期
6102	生命倫理	1	15		2年・後学期
6124	法学	2	30		2年・後学期
6104	論理学	1	15		3年・前学期
6118	運動理論	1	15		3年・前学期
6125	医事法学	1	15		3年・前学期
6423	助産概論	1	15		3年・前学期
6447	国際看護学Ⅰ	2	30		3年・前学期
6448	国際看護学Ⅱ	1	15		3年・前学期
6512	国際看護実習	2	90		3年・後学期
6128	芸術と人間	2	30		3年・後学期
6437	地域母子保健	1	15		3年・後学期
6212	仏語	1	15	34	4年・後学期
6403	看護論	1	15	35	4年・後学期
6443	看護教育論	2	30	37	4年・後学期
6445	エンカウンター	1	30		4年・後学期
合 計	26 科目	37	645		

注1) 上表中の科目から9単位以上履修すること。

注2) 教育職員免許法別表第二の規定により、保健師免許を基礎資格として養護教諭二種免許の取得を希望する者は、法学を履修すること。

注3) 「放送大学との単位互換制度」及び「長野県内大学単位互換制度」を活用して履修してもよい。

3. 助産師国家試験受験資格に必要な授業科目

科目番号	科 目	単位数	時間数	貢	開 講 時 期
6423	助産概論	1	15		3年・前学期
6424	助産方法Ⅰ	2	30		3年・後学期
6426	助産方法Ⅲ	1	15		3年・後学期
6437	地域母子保健	1	15		3年・後学期
6425	助産方法Ⅱ	2	60	39	4年・前学期
6427	助産業務管理	1	15	42	4年・前学期
6510	助産実習	10	450	44	4年・後学期

注1) 助産師課程の履修を認められた者は、すべての科目を履修すること。

3年後学期 授業内容

必修科目

科目名	遺伝と人間	科目番号	6301	単位	1	時間	15
責任教員	太田 克矢	必修・選択別	必修	開講学年		3年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	遺伝子の発現機構、遺伝形式およびヒトの遺伝子病の仕組みを理解することで、遺伝と疾患についての基礎科学的レベルでの関係を説明し、具体的な例を挙げることができる。また、遺伝看護の役割や遺伝カウンセリングの基礎について重要な事柄について説明できる。講義では、これらを達成する為の内容を展開する。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽○】【主体的学修○】【倫理的判断◎】						
学修目標	下記の学修課題の項目について学修する。これらについての理解を深め、各事項についての知識を獲得し、説明できるようにする。						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1	遺伝学の基礎	遺伝医療における看護の現状と展望 染色体と DNA タンパク質の発現の仕組み			講義	太田	
2	遺伝学の基礎	細胞分裂時の DNA 複製 染色体と遺伝			講義	太田	
3	遺伝学の基礎	メンデルの法則 染色体異常			講義	太田	
4	突然変異	修復の機構 染色体異常 突然変異の仕組み			講義	太田	
5	遺伝子と疾患	遺伝と体質、家計図、遺伝形式、メン デル遺伝病 遺伝学的検査			講義	太田	
6	遺伝看護概説	遺伝医療の概要、遺伝看護学の実践			講義	時間講師 竹内	
7	遺伝カウンセリング 概説	遺伝カウセリングの進め方、遺伝医療 における倫理			講義	時間講師 竹内	
8	まとめ	上記、内容についてまとめる。			講義	太田	
授業時間外学習	事前学習：事前にプリントが配布された場合は、これを用いて予習を行い、授業に望むこと。 事後学習：配布したプリントを参考に学士課程の3学年としてふさわしい復習をおこなうこと。						
評価方法	筆記試験（100%）						
テキスト	中込さと子（監修）、西垣昌和（編集）、渡邊淳（編集） 基礎から学ぶ遺伝看護学「継承性」と「多様性」の看護学 羊土社 ISBN：978-4-7581-0973-4						
参考文献							
実務経験のある教員	竹内幸江						
備 考	一部の内容を時間講師に依頼する予定である。この場合、順番等を変更することがある。適宜プリントを配布する。						

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容

別表 3 (看護師課程) 人体の構造と機能

別表 2 (助産師課程) 基礎助産学

科目名	看護倫理	科目番号	6402	単位	1	時間	30
責任教員	上條 こそえ	必修・選択別	必修	開講学年		3年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	看護師として倫理的に判断し行動するために必要な看護の倫理原則、看護実践上の倫理概念の理解など、基礎的知識を学修する。臨床における倫理的問題の事例検討を通じて、倫理的判断および倫理的行動のための基礎的能力を育成する。						
ディプロマ（DP）との関連	【主体的学修能力○】 【倫理的判断能力◎】 【看護実践能力○】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理を学修する意義を理解できる。 2. 看護の倫理原則、看護職の倫理綱領の概要を理解し、関係する法令・ガイドラインとともに活用する経験をし、その意義を理解できる。 3. 看護実践上の倫理概念を理解できる。 4. 臨床にある倫理的問題からテーマを決めて実情の把握・課題・看護職の役割・対処方法を検討し、倫理的な臨床判断に必要な思考過程を経験することができる。 5. 事例検討を通して、倫理的問題へのアプローチの方法を理解できる。 6. 倫理的な看護実践を提供する態度とはどのようなものであるか説明できる。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容		方 法	担当教員		
1	看護倫理とは何か	生命倫理と看護倫理・倫理と法・歴史的推移・倫理原則など		講義	上條		
2	看護職の倫理綱領	日本看護協会・ICNの倫理綱領を自身の体験で説明		講義 GW	上條		
3	倫理概念を理解する（1）	看護職の責任と患者の権利		講義	上條		
4	倫理概念を理解する（2）	自己決定の尊重（1） ・日本の文化と倫理など		講義	上條		
5	倫理概念を理解する（3）	自己決定の尊重（2） ・アドバンス・ケア・プランニングの体験報告と実施方法の検討		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
6	倫理概念を理解する（4）	自己決定の尊重（3） ・GWの発表		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
7	倫理概念を理解する（5）	対象者の尊厳を守る（1） ・身体拘束：現状を把握する。臨床の実際と関係する法律・ガイドラインをもとに検討		講義 GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
8	倫理概念を理解する（6）	対象者の尊厳を守る（2） ・身体拘束：課題検討と発表の準備		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
9	倫理概念を理解する（7）	対象者の尊厳を守る（3） ・身体拘束：課題発表		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
10	臨床にある倫理的問題を探る（1）	テーマとする倫理的問題を決定・情報収集		講義 GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
11	臨床にある倫理的問題を探る（2）	倫理的問題を課題化し・取り組む方法・看護の役割を検討する		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
12	臨床にある倫理的問題を探る（3）	GWの討議・発表		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
13	倫理的問題の事例検討（1）	倫理的問題の事例検討方法 ・グループ内で事例を紹介		講義 GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
14	倫理的問題の事例検討（2）	・グループ内で事例検討		GW	上條 伊藤 大野 湯澤		
15	倫理的問題の事例検討（3）	・事例検討内容・具体的行動の発表 まとめ		GW 講義	上條 伊藤 大野 湯澤		

授業時間外学習	事前課題：倫理的問題の事例検討に活用できるように、実習で遭遇した倫理的問題であると感じた事例を思い出し整理すること。 各課題についてグループワークに使用する文献・法律・ガイドライン等を集めること。 事後課題：講義・GWに参加した後、各テーマについて自分はどう考えるのか検討し整理すること。
評価方法	レポート提出（60%）、グループワーク参加度・発表（40%） 詳細は初回講義で文書に示し説明する。
テキスト	宮坂道夫（2024）. 系統看護学講座別巻 看護倫理, 医学書院, 東京. ISBN : 978-4-260-05299-3
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員	上條こずえ 伊藤郁恵 大野麻美 湯澤京子
備考	事例検討では体験した事例を扱うため、情報の取扱いに留意すること。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学 別表2（助産師課程） 基礎助産学	

科目名	成人看護実習	科目番号	6504	単位	4	時間	180
責任教員	◎浦野 理香 江頭 有夏	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別		3年・後学期 4年・前学期	
授業概要	健康問題を抱え治療を受ける対象者の疾病や治療、療養生活の特徴について全人的に理解し、看護過程を用いて看護を実践する能力を養う。授業方法は実習である。						
ディプロマ リ-（DP） との関連	【主体的学修○】 【倫理的判断○】 【看護実践◎】 【多職種協働○】						
学修目標	<p>【周術期看護実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者との良好なコミュニケーションに基づき信頼関係を築くことができる。 2. 周術期にある患者の疾病・外傷、治療や検査による影響を理解できる。 3. 周術期にある患者を包括的にアセスメントし、看護問題を導くことができる。 4. 周術期にある患者の疾病・外傷や治療を踏まえ、個別的な看護計画を立案することができる。 5. 周術期にある患者の疾病・外傷や治療を踏まえ、患者の能力を最大限に活かした看護援助を実施することができる。 6. 実施した看護援助とその結果を記述、評価し、看護計画を修正することができる。 7. チーム医療における看護職および他職種の役割、連携、協働を理解することができる。 8. 臨床における責任を自覚し、主体的な学習姿勢で実習に取り組む中で、自己の看護観、倫理観を探求することができる。 <p>【慢性期看護学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者との良好なコミュニケーションに基づき信頼関係を築くことができる。 2. 慢性疾患を持つ患者の疾病、治療や検査による影響を理解できる。 3. 慢性疾患を持つ患者を包括的にアセスメントし、看護問題を導くことができる。 4. 慢性疾患を持つ患者の疾病や治療を踏まえ、個別的な看護計画を立案することができる。 5. 慢性疾患を持つ患者の疾病や治療を踏まえ、患者の能力を最大限に活かした看護援助を実施することができる。 6. 実施した看護援助とその結果を記述、評価し、看護計画を修正することができる。 7. チーム医療における看護職および他職種の役割、連携、協働を理解することができる。 8. 臨床における責任を自覚し、主体的な学習姿勢で実習に取り組む中で、自己の看護観、倫理観を探求することができる。 						
実習計画 ・ 内 容	<p>周術期看護実習（2週間）および慢性期看護学実習（2週間）を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期看護実習の場合は周術期にある患者1名を受け持ち、慢性期看護学実習の場合は入院し治療中の慢性疾患を持つ患者1名を受け持つ。 2. 受け持ち患者に対し、臨床指導者（スタッフ）または教員の指導のもと、患者の安全と安楽の確保に努めながら看護過程を展開し看護援助を行う。 3. 実習は主に病棟で行うが、受け持ち患者の治療に伴って、手術室、ICU・HCU、検査室、リハビリテーション室などでも実習を行う。 						
実習時間外学習	実習に関する知識、技術について学修したうえで実習に臨むこと。 実習前の事前学習課題を行い、実習開始時に提出すること。						
評価方法	目標の達成度を実習評価表に基づき評価する。評価の詳細は実習要項を参照すること。						
実習施設	昭和伊南総合病院 伊那中央病院						
実務経験のある教員	浦野理香 江頭有夏 熊谷理恵 青木駿介 伊藤佑季						
備 考	実習の詳細については、実習オリエンテーションにおいて説明する。						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 成人看護学							

科目名	老年看護実習	科目番号	6505	単位	4	時間	180
責任教員	◎渡辺 みどり 千葉 真弓 細田 江美	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別	3年・後学期 4年・前学期		
授業概要	高齢者の加齢に伴う変化、生活史を理解し、個別的な看護を計画立案し実践することにより高齢者看護の基礎的実践力を養う。また、介護保険施設におけるサービスの特徴と看護師の役割について理解を深める。さらに、通所リハビリテーションの意義と地域で暮らす高齢者のヘルスプロモーションの意義を理解する。これらを通して高齢者看護の知識と実践を統合的に考察する。						
ディプロマ リスト（DP） との関連	【主体的学修◎】【倫理的判断◎】【看護実践◎】【他職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち対象者の QOL をふまえた看護過程の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の加齢に伴う変化と疾患・症状に必要な治療を説明することができる。 2) 対象者の生活史を理解し、個別的にアセスメントすることができる。 3) 日常生活に関連した課題に対する看護目標・計画を立案できる。 4) 3) の課題に対して、対象者の状況に応じた看護援助を実施できる。 5) 実施した看護援助を評価できる。 2. 高齢者との関わり方と看護の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の特徴をふまえたコミュニケーションをとることができる。 2) 高齢者とのかかわりについて、自己の判断と対応という視点から分析することができる。 3. 施設におけるサービス利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設サービス利用者の特徴を理解する。 2) 施設サービスの内容を理解し、高齢者とその家族にとってのサービス利用の意義を理解する。 3) 介護保険制度とサービスの実態を理解する。 4. 施設における看護の役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設で働く看護師の実際の役割を理解する。 2) 他の職種との連携について理解する。 5. デイケアでリハビリテーションを行う高齢者への看護の役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) デイケアを利用する高齢者とその家族の生活実態を理解する。 2) 高齢者とその家族にとってのデイケアにおけるリハビリテーションの意義と必要な援助について理解できる。 3) デイケアでの在宅療養生活の支援に必要な看護師の実際の役割と専門性を理解する。 4) 在宅療養する高齢者への援助に必要な多職種との連携を理解する。 6. 地域における一般介護予防事業に参加する高齢者と看護の役割の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の他者との交流、健康の維持・増進、主体的な社会参加を目指した社会資源としての「ふれあい いきいきサロン」の意義を理解する。 2) 他者との交流、健康の維持・増進、主体的な社会参加の視点から、個々の高齢者が「ふれあい いきいきサロン」に参加することの意義を考察する。 3) 一般介護予防事業に参加する高齢者の健康維持・増進に求められる看護について考察する。 						

実習計画 ・ 内 容	<p>本実習は、介護老人保健施設実習、デイケア実習、駒ケ根市の「ふれあい いきいきサロン」実習から構成される。</p> <p>期間は4週間（休日除く）とし、原則として8：30～17：00の実習時間とする。</p> <p>1) 介護老人保健施設実習 施設を利用している認知症高齢者または寝たきり状態にある高齢者を1名以上受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p><1週目～中間カンファレンス> 対象者に展開している看護過程を検討し、日常生活に関連した援助課題を明確にして援助の方向性を探る。</p> <p><2・3週目> 立案した看護計画にもとづいて、対象者の状況に応じた看護を実施し、評価をしつつ個別で具体的な看護過程へと展開する。</p> <p>2) デイケア実習 デイケア利用者の自宅への送迎に同行して生活実態を把握する。また、デイケアで提供されているリハビリテーションプログラムに参加し、在宅で暮らしている高齢者のデイケアでリハビリテーションを受ける目的と意義をふまえた個別的な援助方法を検討する。</p> <p>3) 駒ケ根市の「ふれあい いきいきサロン」実習 <サロンの開催日に合わせて実施> 駒ケ根市社会福祉協議会が中心となり支援している駒ケ根市「ふれあい いきいきサロン」に参加する。地域在住高齢者との交流により、高齢者の健康行動と看護への理解を深める。</p>
実習時間外学習	知識・技術の両面において既修の学修内容を復習しつつ実習に臨むこと
評価方法	実習目標の各項目に対する到達度ならびに学習態度・実習記録・出席状況 評価の詳細は実習要項を参照すること
実習施設	介護老人保健施設・デイケア実習 老人保健施設すずたけ 老人保健施設はびろの里 介護老人保健施設センテナリアン 高齢者の水中運動実習 長野県看護大学プール棟
実務経験のある教員	渡辺みどり 千葉真弓 細田江美
備 考	
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 老年看護学	

科目名	精神看護実習	科目番号	6506	単位	3	時間	135
責任教員	◎東 修 有賀 智也 高村 有加	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別		3年・後学期 4年・前学期	
授業概要	患者と出会い、その人となりを理解しながら、精神症状による生活障害、患者の困りごとに目を向け、患者と共に方向性を考えながら精神看護実践を展開する。またプロセスレコードを振り返り、患者との関係で生じた相互作用について考察し、信頼関係の構築をはかるとともに自己への気づきを深める。						
ディプロマ リスト(DP) との関連	【自己研鑽○】 【主体的学修◎】 【倫理的判断◎】 【看護実践◎】 【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者に関心を寄せることができる。 2) 患者が歩んできた人生を想像し、発達・成長段階をふまえて現在の状況を理解できる。 3) 患者の病態からくる、対人関係と日常生活に及ぼす影響を理解できる。 4) 患者との関わりから、その人のもっている力を理解できる。 5) 患者に起こっている倫理的問題を認識できる。 2. 患者－看護者関係における治療的意味を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の訴えや思いを傾聴し、共感の意味について考えることができる。 2) 自分の思いを患者に言語・非言語的コミュニケーションを活用して伝えることができる。 3) スポーツ、レクリエーション、作業などを通してコミュニケーションの意味を理解できる。 4) プロセスレコードの活用から、患者の思い、自分自身の物事の見え方や対人関係の傾向、関わりが及ぼす双方への影響に気づくことができる。 5) 患者－看護者関係の段階について理解できる。特に実習終了時には、受持ち患者と共に2週間を振り返り、関係の終結ができる。 3. 看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の状態をアセスメントできる。 2) 看護計画を立案できる。 3) 看護計画に基づいて、援助を実施できる。 4) 実施した援助を考察・評価、修正し、今後の方向性について考えることができる。 4. 集団におけるチームワークを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チームにおける看護師の役割について考えることができる。 2) 患者に関わる他職種者の役割と連携の必要性がわかる（家族、医師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師、栄養士など）。 5. 精神保健福祉法に基づく人権擁護や処遇、患者をとり巻く病棟環境について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉法の基礎知識（入院の形態・行動の制限・人権の擁護）について理解できる。 2) 治療的環境としての病棟のあり方および人的環境について理解できる。 6. 患者や家族にとっての社会資源の役割とその活用を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族との関係や家族の状況、地域サポートシステムについて考えることができる。 2) 精神障害者の社会復帰後の現状を踏まえて、治療継続の必要性について理解できる。 3) 退院後に患者が活用できる医療福祉制度について考えることができる。 7. 実習生として誠実で責任ある行動がとれる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の安全・安楽を守ることができる。 2) 主体的な態度で実習に取り組むことができる。 						

	<p>3) カンファレンスで自分の意見を積極的に述べることができる。</p> <p>4) 学生としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。</p> <p>5) 提出物の期限・期日を守ることができる。</p>
実習計画 ・ 内 容	<p>1. 配置された病院（病棟）および施設で実習を行う。</p> <p>2. 期間は3週間とする。</p> <p>3. 病棟実習</p> <p>1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護実践に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、看護過程を展開する。 ・精神症状と、それによる日常生活への影響、患者の困りごとや強みに目を向ける。 ・患者－看護師関係における相互作用の意味を理解する。 <p>2) 医療チームにおける他職種の役割と看護職との連携について学ぶ。</p> <p>3) 日々のカンファレンスで、1日の実習での学びや気づき、患者との関係における感情体験について共有する。プロセスレコードの検討を行い、患者との相互作用について考察し、対象の理解とともに自己への気づきを深める。</p> <p>4) 病棟ごとにケース検討会①を行う。アセスメントに基づき看護問題の定義とその優先度について発表・検討し、看護計画の立案に役立てる。</p> <p>5) 病棟ごとにケース検討会②を行う。立案した看護計画を発表・検討し、よりよい看護計画の立案に役立てる。</p> <p>6) 病棟（病院）ごとに病棟実習最終カンファレンスを行う。病棟実習での学びや気づきを共有し、精神看護実践についての理解を深める。</p> <p>4. 地域実習</p> <p>デイケアや作業所等での実習を通し、患者の地域生活を支援するための社会資源やシステム、支援のあり方について学ぶ。</p> <p>5. 実習最終カンファレンス</p> <p>病棟実習および地域実習での学びや気づきを全グループで共有し、精神看護実践についての理解を深める。</p>
実習時間外学習	知識・技術の両面において既修の学修内容を復習して実習に臨むこと。既修の学修内容と実習での学びを結び付けて受け持ち患者の看護過程を記録すること。
評価方法	実習内容および実習記録（100%）
実習施設	長野県立こころの医療センター駒ヶ根 社会医療法人栗山会飯田病院 信州大学医学部附属病院 JA 長野厚生連北アルプス医療センターあづみ病院 社会福祉法人楓会はなみずきの郷 親愛の里・自立訓練事業所親愛の里シンフォニー 伊那市社会福祉協議会障害者社会就労センターコスモスの家 社会福祉法人希望の虹いずみの家
実務経験のある教員	東 修 有賀智也 高村有加 大曾根由季
備 考	<p>1. 実習オリエンテーションには必ず参加すること。</p> <p>2. 実習要項を熟読して実習に望むこと。</p> <p>3. 実習施設が遠方になる場合もあり、一部の学生は宿泊が必要となる。</p> <p>※2025年の後学期から内容を変更する可能性がある。詳細は実習要項を参照のこと。</p>
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 精神看護学	

科目名	母性看護実習	科目番号	6507	単位	2	時間	90
責任教員	◎古川 亮子 福澤 利江子	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別	3年・後学期 4年・前学期		
授業概要	対象を母性看護の視点から理解し、周産期にある母子に対するウェルネスの看護を実践するための知識、技術、態度を習得する。						
ディプロマ リスト（DP） との関連	【主体的学習能力◎】【倫理的判断◎】【看護実践能力◎】【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥期、胎児期・新生児期をプロセスとして理解し、各期の影響要因をふまえた看護ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦および胎児の健康状態をアセスメントできる。 2) 妊娠に伴う心理・社会的特徴について説明できる。 3) 保健指導の見学をとおし、妊婦のセルフケア能力を高めるための看護を説明できる。 4) 妊娠・分娩経過と産褥経過を継続的に考えることができる。 5) 産褥期・新生児期をウェルネスの視点から考えることができる。 6) 母子関係を確立するために必要なサポートについて説明できる。 7) 褥婦および新生児の健康状態に関する情報収集ができる。 8) 7) に基づき褥婦および新生児の健康状態をアセスメントし、看護過程を展開できる。 9) 立案した看護ケアを安全・安楽に実施できる。 10) 実施した看護ケアを的確に報告できる。 11) 実施した看護ケアを記録に記載できる。 12) 実施した看護ケアの評価ができる。 13) 対象者の個別性を理解し、それに応じた看護支援について考察できる。 14) 子育て期にある家族を継続的に支援していくための社会資源の活用について説明できる。 2. ウィメンズヘルスやリプロダクティブヘルス／ライツに関連する社会情勢を理解し、看護師の役割について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ウィメンズヘルスやリプロダクティブヘルス／ライツに関連する社会情勢について調べ、その問題を抽出することができる。 2) ウィメンズヘルスやリプロダクティブヘルス／ライツに関わる看護職者の役割や活躍する場所について理解できる。 3) ウィメンズヘルスやリプロダクティブヘルス／ライツに携わっている機関や職種について理解できる。 3. 専門職としてふさわしい態度と行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。 2) 学生として責任ある行動をとることができる。 3) 実習中に知り得た妊産褥婦・新生児とその家族および医療者の情報等に関する守秘義務を守ることができる。 4) 指導者の助言を真摯に受け止め、今後の看護活動に活かすことができる。 5) カンファレンスで自分の意見を積極的に述べ、メンバーと共有することができる。 6) 実習の自己評価を行い、今後に向けて課題を明らかにできる。 						
実習計画 ・ 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに配置された実習施設や病棟、学内で実習を行う。 2. 病棟では母児1組を受け持ち、周産期の看護技術を修得する。 3. 母性看護過程1例を展開する。 						

<p>実習時間外学習</p>	<p>知識・技術の両面において既修の学修内容を復習して実習に臨むこと。 既修の学修内容と実習での学びを結び付けて受け持ち患者の看護過程を記録すること。 実習後、与えられたテーマに関するレポートの作成を行うこと。</p>
<p>評価方法</p>	<p>実習目標の到達度ならびに学習態度、実習記録、出席状況により総合的に評価する。 詳細は実習要項、実習評価表に示す。 実習記録提出遅滞および欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。</p>
<p>実習施設</p>	<p>伊那中央病院 産科（4階西）病棟・産婦人科外来 はぎもと助産院、駒ヶ根市子育て支援センターまあるくなあれ♪、きつずらんど 長野県男女共同参画センター</p>
<p>実務経験のある教員</p>	<p>古川亮子、福澤利江子、鈴木容子、河上みづほ</p>
<p>備 考</p>	<p>実習の詳細については、実習オリエンテーションで説明するので必ず出席すること。</p>
<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 母性看護学</p>	

科目名	小児看護実習	科目番号	6508	単位	3	時間	135
責任教員	◎竹内 幸江 高橋 百合子	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別	3年・後学期 4年・前学期		
授業概要	<p>成長・発達過程にある子どもおよび家族と、その人たちをとりまく社会的環境を理解し、小児看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。</p> <p>【病院実習】 健康障がいや入院が子どもと家族におよぼす影響を理解し、健康障がいをもつ子どもへの成長発達過程に応じた適切な看護援助の方法や、家族のニーズに応じた適切な看護援助の方法を学ぶ。</p> <p>【保育園実習】 乳幼児期の子どもの成長発達や日常生活行動の特徴を理解し、子どもとのコミュニケーションおよび日常生活ケアの技術について学ぶ。</p>						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽○】【主体的学修○】【倫理的判断○】【看護実践◎】【多職種協働○】						
学修目標	<p>【病院実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達を理解し、発達過程に応じた適切な日常生活の援助ができる。 2. 子どもの健康障がいを理解し、発達過程を考慮した看護過程の展開ができる。 3. 子どもおよび家族をとりまく社会的環境を理解し、健康障がいや入院が子どもと家族におよぼす影響を認識した上で、適切な看護援助ができる。 4. 子どもの安全をアセスメントし、適切な行動および環境整備ができる。 5. 小児看護における看護技術および治療・処置・検査の介助方法を学ぶ。 6. 小児看護における看護師の役割および保健医療チームの役割について学ぶ。 7. 子どもの生活環境について理解し、健康障がいをもつ子どもにふさわしい入院環境の調整を考える。 <p>【保育園実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に参加することにより、健康な乳幼児の発達過程に沿った日常生活行動を理解する。 2. 保育者の乳幼児への接し方などを参考に、発達過程に応じたコミュニケーションの方法や日常生活の援助について学ぶ。 3. 乳幼児期における遊びの意義を考え、遊びの援助について学ぶ。 4. 子どもにとって安全な生活環境について考え、安全を考慮した環境の整備や具体的な行動をとることができる。 						
実習計画 内容	<p>本実習は、病院実習と保育園実習で構成される。</p> <p>期間は3週間（休日除く）とし、原則として、実習時間は8：30～17：00とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院実習（1～2週目） <ol style="list-style-type: none"> 1) 1名以上の子どもを受け持ち、看護過程を展開する。 2) 健康障がいをもつ子どもをとりまく保健医療チームの役割と連携の必要性を考え、保健医療チームの一員としての自己の役割を認識する。 3) 病院により、PICU、手術室、小児科外来、院内学級等の見学実習を行う。 4) 健康障がいを持つ子どもと家族にとってよりよい入院環境について話し合いを行う。 5) 病棟ごとに受持児に関するケースカンファレンスを行う。 2. 保育園実習（3週目） <ol style="list-style-type: none"> 1) 園長および各クラス担当保育士の指導により、園の日課にそって保育を行う。 2) 実習期間中に1回、各園にてカンファレンスを行う。 						

実習時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項「事前学習」を確認すること。 2. 施設ごとの詳細については、実習オリエンテーション等で説明する。
評価方法	<p>実習内容、実習態度、実習記録、出席状況から総合的に評価する。 病院実習（80%）、保育園実習（20%） 評価の詳細は実習要項を参照すること。</p>
実習施設	<p>長野県立こども病院 伊那中央病院 信濃医療福祉センター 昭和伊南総合病院 駒ヶ根市内の保育園</p>
実務経験のある教員	<p>竹内幸江 高橋百合子 白井史 足立美紀 小原綾香</p>
備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項を熟読して実習に臨むこと。 2. 長野県立こども病院、信濃医療福祉センターでの実習の場合は宿泊となる。
<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 小児看護学</p>	

科目名	地域看護実習	科目番号	6509	単位	4	時間	180
責任教員	◎安田 貴恵子 御子柴 裕子	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別	3年・後学期 4年・前学期		
授業概要	1. 個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護活動の方法とその展開に必要な技術を実地に学ぶ。 2. 看護専門領域の一つとしての公衆衛生看護の特徴を学び、看護の社会的役割について理解を深める。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽◎】 【主体的学修◎】 【倫理的判断◎】 【看護実践◎】 【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	I. 公的に提供される保健福祉活動に関する学修 1) 市町村や保健所が行政サービスとして行う保健福祉活動の意義を説明できる。 2) 保健師・養護教諭が担っている役割と配属されている必要性を説明できる。 II. 地区活動に関する学修 3) 活動の対象となる地域の生活集団の構成や地域の特性を把握し、ヘルスニーズを明らかにするための方法を説明できる。 4) 実習施設で行われている地区活動について、地域特性やヘルスニーズとの関連を説明できる。 5) 実習施設で行われている地区活動について、国や県の保健福祉施策との関連を説明できる。 6) 実習施設で行われている地区活動について、展開方法の一連のプロセス（計画・実施・評価・改善）を説明できる。 III. 地区活動の展開方法と援助技術に関する学修 7) 対象が健康に対する意識を高め、主体的に取り組むための保健指導の方法を理解し実施できる。 8) 家族を援助の単位とした活動の展開と保健指導の方法を理解し実施できる。 9) 家庭訪問による援助の方法を説明できる。 10) 他職種および他機関と協働して活動を展開する方法を説明できる。 11) 地区組織・住民グループ等の活動について理解し、協働する方法を説明できる。 12) 地域ケア体制を整える必要性ならびに地域ケア体制づくりの方法を説明できる。 IV. 地域の健康危機管理に関する学修 13) 生活集団における健康の危機（感染症・虐待・DV・自殺・災害等）に対する平常時の備えや発生時の対応方法を説明できる。 V. 実習体験を振り返り、自己の学びを整理する ・実習での体験、現地で専門職として活躍している人々と接する体験を通して、看護職としての自らの姿勢を考えることができる。 ・実習での体験を振り返り、公衆衛生看護活動の特徴を踏まえて、看護活動をさらに充実発展させるためにはどのような課題があるか考えることができる。						
実習計画 内容	1. 市町村保健師の活動に関する実習 住民の身近な場所で健康と生活を守る市町村保健師の地区活動の展開方法と援助技術を学び、市町村保健師の担う役割について考察する。 2. 保健所保健師の活動に関する実習 複数の市町村を管轄する県保健所の役割と、保健所保健師の地区活動の展開方法ならびに求められる援助技術を学び、保健所保健師の担う役割について考察する。 3. 学校保健に関する実習 教育機関である小学校・中学校に所属する養護教諭の活動方法と援助技術（個人・集団のヘルスニーズの把握方法、児童・生徒の成長・発達段階の特性に合わせた個人・集団への援助の方法等）を学び、養護教諭の担う役割について考察する。						
実習時間外学習	知識・技術の両面において既修の学修内容を復習して実習に臨むこと。既修の学修内容と実習での学びを結び付けて記録を作成すること。与えられたテーマに関するレポートの作成を行うこと。						
評価方法	1. 実習内容（84点）：実習記録の内容、援助の展開、カンファレンス等での発言内容に基づく実習目標の達成度						

	2. 実習への取り組み・態度（16点）：実習プログラムに取り組む意欲や主体性、グループ活動におけるリーダーシップとメンバーシップ 欠席・遅刻・早退、実習記録提出の遅延は、理由にかかわらず減点の対象となる。
実習施設	上伊那地域または木曾地域の市町村 長野県内の保健所 上伊那地域の小学校・中学校 遠隔地での実習は宿泊の可能性はある。
実務経験のある教員	安田貴恵子 御子柴裕子 酒井久美子 村井ふみ 下村聡子
備考	公衆衛生看護活動の対象者は、さまざまな年代や健康レベルにあるので、他の専門領域の学修内容、授業資料等を活用して学修を進めること。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表1（保健師課程） 個人・家族・集団・組織の支援実習 公衆衛生看護活動展開論実習 公衆衛生看護管理論実習	

科目名	在宅看護実習	科目番号	6513	単位	2	時間	90
責任教員	◎柄澤 邦江 小野塚 元子	必修・選択別	必修	開講学年 前・後学期別	3年・後学期 4年・前学期		
授業概要	療養者と家族が暮らす地域や生活の場で行われる看護の実際から、在宅看護の特徴と看護職の役割を理解し、在宅看護の基礎的能力を養う。						
ディプロマ ラー（DP） との関連	【自己研鑽能力○】【主体的学修◎】【倫理的判断◎】【看護実践◎】【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	1. 療養者と家族を全人的に捉え、QOLの維持・向上を踏まえた在宅看護過程を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者と家族を取り巻く様々な環境を理解し、全的に捉える。 2) 療養者と家族が必要としているサービスや社会資源を理解する。 3) 療養者と家族の意向を踏まえ、アセスメントをする。 4) 課題の優先度を考えて看護課題を抽出する。 5) 1)～4)の過程を通して、在宅看護過程の特徴を理解する。 2. 療養者と家族に対する訪問看護師の支援と役割を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者と家族に対する訪問看護師の援助や工夫について理解する。 2) 訪問看護師同士や他職種との連携について理解する。 3. 療養者と家族との信頼関係の構築のための関わり方を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者や家族を尊重した訪問看護師の関わり方を理解する。 2) 療養者と家族に対する適切なコミュニケーションを理解する。 4. 療養者と家族に対する多職種の連携・協働を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者と家族に対する在宅ケアチームの支援について理解する。 2) 在宅ケアチームの一員としての看護職の役割を理解する。 5. 療養者と家族に対する地域医療機関の看護職と他の専門職の支援について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者と家族が在宅療養の中でどのように地域医療機関を利用しているか理解する。 2) 療養上の様々なニーズに合わせた看護職等の活動について理解する。 6. 実習生として誠実で責任ある態度と行動をとる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習にふさわしい態度をとる。 2) 積極的にケアに関わる。 3) 責任ある行動をとる。(指導者への相談・質問、療養者のプライバシーの保護) 4) カンファレンスで積極的に発言し、グループメンバーと共に学びを深めることができる。 						

<p style="text-align: center;">実習計画 内 容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習初日の学内オリエンテーション・演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各実習施設の具体的なスケジュールを確認する。 2) 実習に際して、自己の学修目標を明確にする。 3) 既修知識、事前学習の確認を行う。 4) 「訪問看護の実際」を理解するための演習を行う。 2. 訪問看護実習（3日） <ol style="list-style-type: none"> 1) 10か所の訪問看護ステーションまたは医療機関内の訪問看護担当部署に分かれて実習する（1施設学生1名）。 2) 訪問看護師との同行訪問を行い、療養者宅における看護援助の見学と実施、療養者と家族とのコミュニケーションや観察を通して、生活の様子や療養環境について把握する。 3) 同行訪問する療養者の中から一事例を選定し、看護課題を抽出する。 4) 機会があれば、各種の会議（退院前カンファレンス、サービス担当者会議）に参加する。 3. 地域医療機関実習（1日） <ol style="list-style-type: none"> 1) 2か所の地域医療機関に分かれて実習する（1施設学生3～4名）。 2) 外来における患者への看護職や他の専門職の支援の見学や患者とのコミュニケーションを通し、疾病や障がいをもちながら地域で暮らす人々を理解する。 3) 外来部門、入退院支援部門などに分かれて実習し、療養上の様々なニーズに合わせた看護職や他の専門職の活動を理解する。 4) テーマカンファレンス（「療養者と家族に対する地域医療機関の看護職と他の専門職の支援」）を行い、学びを共有する。 4. 訪問看護事例演習・実習の学びの共有（1日） <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護事例演習および実習での体験・学びを共有し、在宅看護過程を理解する。 5. 学内最終まとめ（1日） <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で体験し、学んだこと、考えたことなどを共有するためにテーマに沿って討議を行う。
<p style="text-align: center;">実習時間外学習</p>	<p>知識・技術の両面において既修の学修内容を復習して実習に臨むこと。既修の学修内容と実習での学びを結び付けて記録すること。実習後、与えられたテーマに関するレポートの作成を行うこと。</p>
<p style="text-align: center;">評価方法</p>	<p>以下の項目をもとに総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標の項目毎の到達度 （実習指導者の意見（挨拶、実習態度、積極性など）も参考にする。） 2. 実習記録の内容 3. 遅刻・早退・欠席および記録物の提出の遅延
<p style="text-align: center;">実習施設</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション 訪問看護ステーションみどり 訪問看護ステーションみどり（いな支所） 訪問看護ステーションすずたけ 伊那中央病院訪問看護ステーション 伊南訪問看護ステーション 昭和伊南総合病院訪問看護ステーション 下伊那赤十字訪問看護ステーション 円会訪問看護ステーション あち訪問看護ステーション ここ花訪問看護ステーション 2. 地域医療機関 下伊那赤十字病院または昭和伊南総合病院
<p style="text-align: center;">実務経験のある教員</p>	<p>柄澤邦江 小野塚元子 富田美雪</p>

備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前に事前オリエンテーションを行い（3コマ）、実習までに取り組む準備の説明および演習と、臨地実習指導者によるオリエンテーションを実施する。また、学内最終まとめの翌日に個別面接を行う。 2. 在宅ケア論・在宅ケア方法Ⅰ・在宅ケア方法Ⅱで使用したテキスト及び資料を活用する。
<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容</p> <p>別表3（看護師課程） 地域・在宅看護論</p> <p>別表1（保健師課程） 個人・家族・集団・組織の生活支援実習</p>	

科目名	看護研究方法	科目番号	6701	単位	1	時間	30
責任教員	◎伊藤 祐紀子 田中 広美 秋山 剛 屋良 朝彦	必修・選択別	必修	開講学年		3年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	看護の質の向上のために、研究の必要性を理解する。看護実践に新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解する。看護研究方法の学習を通じて、自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解する。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	【自己研鑽◎】【主体的学修○】【倫理的判断○】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の質の向上に研究が必要であることを理解できる。 2. 文献の検索方法、文献の批判的な検討方法を理解し実践できる。 3. 研究のプロセスについて理解することができる。 4. 研究方法（量的研究、質的研究）の特徴を理解することができる。 5. 新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、今後必要とされる看護研究について検討することができる。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容		方 法	担 当 教 員		
1	看護における研究とは	研究とは何か、看護研究の必要性、目的、意義、臨床実践との関係		講義	伊藤 (祐)		
2	研究のプロセスとは	研究課題（疑問）の性質と研究のタイプ、研究の方法、研究計画書の重要性		講義	伊藤 (祐)		
3	看護研究における文献検索の方法	研究課題（疑問）に沿った文献検索の実践、文献検索の実際		演習	伊藤 (祐)		
4	文献検討 (1)	研究プロセスに沿った文献検討の重要性、文献クリティークの方法		講義	田中		
5	文献検討 (2)	文献を用いたクリティークの実際		演習	田中		
6	研究倫理	研究倫理とは、研究における倫理的配慮、個人情報保護		講義	屋良		
7	量的研究法の理解	量的研究法(記述的研究)の特徴とそれらが用いられる研究課題		講義	秋山		
8	量的研究法の理解	量的研究法(分析的研究、介入研究)の特徴とそれらが用いられる研究課題		講義	秋山		
9	量的研究法による研究計画 (1)	量的研究方法で明確にしたい研究課題の計画書概要の作成		演習 グループワーク	秋山		
10	量的研究法による研究計画 (2)	作成した研究計画書の発表		演習 グループ発表	秋山		
11	質的研究法の基礎的理解	質的研究法の特徴とそれらが用いられる研究課題		講義	伊藤 (祐)		
12	質的研究法による研究計画 (1)	質的研究方法で明確にしたい研究課題の計画書概要の作成		演習 グループワーク	伊藤 (祐) 田中		
13	質的研究法による研究計画 (2)	作成した研究計画書の発表		演習 グループ発表	伊藤 (祐) 田中		

14	研究の実際	実際の看護研究の取り組みに触れる	講義	ゲストスピーカー
15	看護における研究とは	研究とは何か、看護研究の必要性、目的、意義、臨床実践との関係	講義	伊藤(祐)
授業時間外学習	授業ごとに提示する。 別途提示する枠組みをもとにポートフォリオを作成する。			
評価方法	レポート提出（グループ 40%、個人 50%）、授業・グループワーク・演習への参加状況（10%）			
テキスト	坂下玲子（2023） 系統看護学講座－別巻 看護研究（第2版） 医学書院 ISBN：978-4-260-04995-5			
参考文献	適宜紹介する			
実務経験のある教員	伊藤祐紀子 田中広美			
備考				
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学 別表1（保健師課程） 公衆衛生看護管理論				

4年前学期 授業内容

必修科目

科目名	看護管理論	科目番号	6438	単位	1	時間	15
責任教員	◎渋谷 美香 井本 英津子	必修・選択別	必修	開講学年		4年	
				前・後学期別		前学期	
授業概要	保健・医療・福祉におけるヘルスケアシステムの課題を概観し、安全で質の高い看護ケアを組織的に提供するために必要となる理論的知識（組織論、リーダーシップ理論、人的資源管理論、安全管理手法など）を学ぶ。これらの知識を基盤として、時代の変化に対応できる看護職の人材育成およびキャリア開発について考える。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【多職種協働◎】【自己研鑽力○】【主体的学修○】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉における看護管理の機能について理解できる。 2. 安全で質の高い看護ケアを組織的に提供するために必要な理論的知識（組織論、リーダーシップ論、医療安全管理、ケアの質管理、労務管理）について理解できる。 3. 社会の変化に対応できる看護職の人材育成およびキャリア開発について理解できる。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1～2	看護とマネジメント	ヘルスケアシステムの現状と課題 看護管理とは、看護の定義、看護職、 医療制度、医療政策と制度			講義	渋谷	
3	看護サービスマネジメン トの実際	病院および看護部の戦略と運営、人材 資源管理、看護の質管理、看護部長お よび師長の役割等			講義	時間講師	
4	看護ケアとマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の 機能、患者の権利の尊重、チーム医療、 看護業務の実践			講義	井本	
5	看護職の人材育成	キャリアとキャリア形成、看護職のキ ャリア形成、看護専門職としての成 長、スペシャリストの役割			講義	渋谷	
6	リーダーシップ理論	リーダーシップ理論、組織調整			講義	井本	
7	労務管理とワークライフ バランス	労務管理、ワークライフバランス、 ストレスマネジメント			講義	井本	
8	医療安全管理、医療の質評 価	医療安全の動向、リスクマネジメント の考え方、危機管理、医療の質、看護 の質評価			講義	井本	
授業時間外学習	実施時期に適時、説明する。						
評価方法	レポート提出（80%）、取り組み姿勢（20%）						
テキスト	なし						
参考文献	毎回、講義資料を配布する。 参考文献はその都度、提示する。						
実務経験のある教員	渋谷美香 井本英津子						
備 考	「看護管理論」は看護統合実習の先修条件であり、実習に取り組むにあたっての理論的知識の獲得をめざしている。これまでの臨地実習体験などを振り返り問題意識						

	をもって授業に臨むことを期待する。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容	
別表3（看護師課程）	看護の統合と実践
別表1（保健師課程）	公衆衛生看護管理論
別表2（助産師課程）	助産管理

科目名	看護統合実習	科目番号	6511	単位	2	時間	90
責任教員	◎井本英津子 渋谷美香	必修・選択別	必修	開講学年		4年	
				前・後学期別		前学期	
授業概要	安全かつ質の高い看護ケアを組織的に提供するための病棟運営のあり方について、既修の理論的知識と実習先での実践的知識を結び付け、組織における看護職の役割を理解する。また、病棟看護師とともに複数の患者を担当し、看護チームの一員としてリーダーシップ、フォロワーシップのあり方および多重課題に直面した際の意思決定プロセスや問題解決方法など、看護ケアのマネジメントについて理解を深める。さらに、医療チームの一員として多職種と連携について学び、将来のキャリアを見据え、看護専門職としての役割、責務、態度について考え、学修を深める。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【多職種協働◎】【主体的学修○】【倫理的判断○】【看護実践○】 【地域の人々との協働○】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の理念や看護部の目標が、部署（病棟）で提供する看護ケアにどのように関係しているのか、病棟運営（ケアの質管理、安全管理、感染管理、情報管理、物品管理、労務管理、人材育成など）の実際を通して理解できる。 2. 看護師とともに、倫理的視点にもとづくケアの優先順位について考え、必要な看護を実践できる。 3. 多重課題に直面した際の問題解決方法について理解できる。 4. 看護チーム内の情報共有の方法（報告・連絡・相談の必要性とタイミング）を理解でき、看護チームの一員として実践できる。 5. 看護師とともに看護実践を通して、リーダーの役割（リーダーシップ）、メンバーの役割（フォロワーシップ）の実際を理解できる。 6. 多職種との連携場面を通して、医療チームの一員としての連携（目的・内容・方法等）について理解できる。 7. 安全かつ質の高い看護ケアを組織的に提供するうえで、必要な看護ケアマネジメントおよび看護サービスマネジメントについて、自身の考えを述べるができる。 						

実習計画 ・ 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに配置された病院および病棟で実習を行う。 2. 病棟での実習時間は、8：30～15：00とする。15：00～16：00は控室で教員の指導を受ける。 3. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション・学内実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体オリエンテーション、病院別オリエンテーション、各病院の理念の確認をする。 (2) 実習の振り返り、面談、課題レポート作成により自己の課題を明確にできる。 2) 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床講義（各病院の看護部長、医療安全管理者、専門看護師、認定看護師等）を受け、看護サービスマネジメント、看護ケアの組織的取り組み、多職種との連携について理解する。 (2) 病棟看護師と1日の行動を共にしながら、看護ケアマネジメントをシャドウイングする。 (3) 病棟看護師と調整を図りながら、1日の行動計画を立案する。 (4) 病棟看護師と1日の行動を共にしながら、看護ケアのマネジメント（ケアの優先順位と時間配分、多重課題に直面した際の意思決定や問題解決方法など）を理解する。 (5) 一貫性のある看護を提供するための情報収集・情報共有・情報伝達の具体的な方法について理解する。 (6) カンファレンス前に、病棟看護師とともに看護ケアのマネジメントを振り返り、次に向けた課題を明確にする。 (7) 多職種との連携場面に積極的に参画し、多職種連携における看護師の役割を理解する。 (8) カンファレンスで、臨床講義・看護実践を通しての学びを共有する。 (9) 臨地実習での経験や面談を通して自己の課題を明確にする。
実習時間外学習	既修の学修内容と実習での学びを結び付けて日々の課題に取り組むこと。既修の知識、実習での学びを踏まえレポート課題を作成すること。
評価方法	実習目標の到達度（60%）、実習レポート（20%）、実習態度（学内演習やカンファレンスも含む）（20%）
実習施設	諏訪赤十字病院 飯田市立病院 伊那中央病院 昭和伊南総合病院
実務経験のある教員	渋谷美香 井本英津子
備 考	<看護統合実習の先修条件>（学生便覧参照） 看護管理論、全ての看護専門領域実習（成人、老年、精神、母性、小児、地域、在宅） ただし、7領域のうち1つの領域のみの単位が未取得の場合は、当該学生の学修状況を考慮し、履修の可否を判断する。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 看護の統合と実践 別表2（助産師課程） 助産学実習	

科目名	卒業研究	科目番号	6703	単位	4	時間	180
責任教員	全担当教員 (講師以上全教員)	必修・選択別	必修	開講学年		4年	
				前・後学期別		全期	
授業概要	研究の一連の過程を通じて、看護研究に取り組むための基礎的能力を身につける。さらに、その過程を通じて、学術的なものの見方・倫理的態度を培い、看護の可能性を広げる視点を養う。						
ディプロマ リシ - (DP) との関連	【自己研鑽◎】 【主体的学修◎】 【倫理的判断◎】 【看護実践◎】 【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】 【国際的視点での思考◎】						
学修目標	1. 研究の一連の過程への取り組みができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究目的を明確にできる。 2) 文献検討を適切に進めることができる。 3) 研究目的に適した対象を選定することができる。 4) 研究目的に適したデータ収集・分析をすることができる。 5) 研究結果を適切に示し解釈することができる。 6) 研究結果から考察を導き出すことができる。 7) 研究の計画および遂行にあたって倫理的配慮が適切にできる。 2. 研究の報告（報告書、中間報告会・研究発表会など）ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 論理的に述べることができる。 2) 適切な表現で記載できる。 3) 指示された方法で資料を作成できる。 4) 発表の内容を適切に整えることができる。 5) 質問に対して的確に答えることができる。 3. 適切な態度（主体性、積極性、連絡・報告・相談、期日厳守など）で研究を行うことができる。 ただし、小目標については、分野・領域独自のものが追加される可能性がある。						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容		方 法	担 当 教 員		
1	卒業研究の進め方の理解 (1)	卒業研究の目的・意義を理解する。 (卒業研究全体ガイダンス)		演習	教務委員会		
2	卒業研究の進め方の理解 (2)	研究分野の研究の特徴を理解する。 (研究分野別ガイダンス)		演習	全担当教員		
3～90	研究の一連の過程への取 り組み	1) 研究目的の明確化 2) 文献検討 3) 研究目的に適した対象を選定 4) 研究目的に適したデータ収集・分 析 5) 研究結果の提示・解釈 6) 研究結果に対する考察 7) 卒業研究（報告書）の作成 8) 提出期日までに報告書を提出 9) 卒業研究発表会での報告		演習	全担当教員		
授業時間外学習	担当教員の指示・指導に従う。						
評価方法	卒業研究評価基準に基づいて、学修目標1：50%、学修目標2：30%、学修目標3：20%、合計100%で評価する。 評価方法の詳細については、担当教員に確認すること。						
テキスト	担当教員が随時紹介する。						
参考文献	担当教員が随時紹介する。						

実務経験のある教員	
備 考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人またはグループで、各分野の指導を受けて研究の一連の過程を学ぶ。なお、グループで研究を行った場合においても、原則的に報告書は個別に作成して提出する。 2. 卒業研究のテーマ設定にあたっては、提出期日を鑑み、学生自身が実現可能な範囲の研究になるように留意する。 3. 学生便覧「令和 7 年度卒業研究の提出方法について」を確認し、提出期限厳守で提出する。 4. 卒業研究の研究倫理については、長野県看護大学倫理委員会の方針「学部生の研究倫理について」に従うこと。なお 5. 卒業論文提出後、卒業研究発表会を開催するので、全員が参加すること。なお、開催方法等詳細は別途連絡する。
<p>保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容</p> <p>別表 3（看護師課程） 科学的思考の基盤 人間と人間生活の理解 人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 社会保障制度と生活者の健康 基礎看護学 地域・在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学 看護の統合と実践</p> <p>別表 1（保健師課程） 保健医療福祉行政論</p>	

選択科目 授業内容

科目名	仏語	科目番号	6212	単位	1	時間	15
責任教員	屋良 朝彦	必修・選択別	選択	開講学年		4年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	フランス語の初等文法および日常会話を学びます。CD やビデオを用いて、フランス語独特の発音や表現を学びます。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽○】【主体的学修○】【国際的視点での思考◎】						
学修目標	1. フランス語の初等文法を学ぶ。 2. フランス語の独特の発音を学ぶ。 3. フランス語の日常会話を学ぶ。						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1	フランス語の基本ルール	ABC、発音、様々な挨拶			講義	屋良	
2	レッスン1・2	冠詞、être 動詞 (英語の be 動詞)、名詞の性と数			講義	屋良	
3	レッスン3	Avoir 動詞 (英語の have)			講義	屋良	
4	レッスン4	er 動詞 (一般動詞)、動詞の復習			講義	屋良	
5	レッスン5・6	否定文、数字 (1~60)			講義	屋良	
6	レッスン7	時刻の表現、数字 (60~100)			講義	屋良	
7	レッスン9~10	形容詞の様々な表現			講義	屋良	
8	ビデオを見て学ぶ。	日常会話を学ぶ。			講義	屋良	
授業時間外学習	事前学習：授業に際しては、教科書の当該箇所を読んで予習をしておくこと。 事後学習：動詞の活用の練習など、復習をしっかりとすること。						
評価方法	小テスト (70%)、授業中の取り組み (30%)						
テキスト	中田俊介 (2016) ゼロから始める書き込み式フランス語 BOOK 成美堂出版 ISBN : 978-4415305165						
参考文献							
実務経験のある教員							
備 考							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間と人間生活の理解							

科目名	看護論	科目番号	6403	単位	1	時間	30
責任教員	伊藤 祐紀子	必修・選択別	選択	開講学年		4年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	臨地実習における経験、学びについて既存の看護論を用いて比較検討し、自らの実践知として論理的に表現し説明する能力を育成する。						
ディプロマ リ-との関連	【自己研鑽○】【主体的学修○】【倫理的判断○】【看護実践◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史と看護理論の発展を理解できる。 2. 看護理論の役割と必要性について理解できる。 3. 看護理論の特徴について理解できる。 4. 看護理論や概念を活用して臨地実習の経験を考察することができる。 5. 3.を通じて独自の実践知を見出し他者に説明することができる。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護の歴史と看護理論 発展の理解	学習ガイダンス 看護の国内外の歴史、各時代背景のもと発展してきた看護理論			講義	伊藤（祐）	
2	看護理論の役割・特徴	看護理論の役割と必要性 看護理論の特徴			講義	伊藤（祐）	
3	看護理論を活用した文献 の検討（1）	看護研究論文において、看護理論、概念枠組み、概念モデルを活用した文献のクリティーク			ディスカッション	伊藤（祐）	
4	看護理論を活用した文献 の検討（2）	看護研究論文において、看護理論、概念枠組み、概念モデルを活用した文献のクリティーク			ディスカッション	伊藤（祐）	
5	看護理論や概念の活用 （1）	臨地実習で体験した看護場面を探究するための看護理論を検討する。			講義 ディスカッション	伊藤（祐）	
6	看護理論や概念の活用 （2）	看護理論を活用して臨地実習で体験した場면을考察する。			講義 ディスカッション	伊藤（祐）	
7	看護理論や概念の活用 （3）	看護理論を用いて探究した実習体験を他者に説明する。			プレゼンテーション ディスカッション	伊藤（祐）	
8	看護理論や概念の活用 （4）	探究を通じて見出した自己の実践知を他者に説明し共有する。			プレゼンテーション ディスカッション	伊藤（祐）	
授業時間外学習	各回説明する。						
評価方法	レポート提出（60%）、ディスカッションへの参加（20%）、プレゼンテーション（20%）						

テキスト	
参考文献	随時紹介する。
実務経験のある教員	伊藤祐紀子
備 考	学生間のディスカッションを行うため、2名以上で開講します。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学	

科目名	看護教育論	科目番号	6443	単位	2	時間	30
責任教員	◎井本 英津子 渋谷 美香	必修・選択別	選択	開講学年		3年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	看護教育の特徴、教育内容と方法について学修し、質の高い看護実践が提供できる看護職育成のための看護教育のあり方を考える。 社会の変化とわが国の看護教育制度の変遷などを概観し、看護基礎教育および継続教育に関する諸課題について考察する。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽○】【主体的学修◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育とは何かを理解できる。 2. 看護教育の特徴、教育内容や方法および評価の概要を理解できる。 3. 我が国の看護教育制度の変遷を理解し、看護基礎教育の現状および課題について理解できる。 4. 看護学生と看護師育成のための基礎となる学習理論を理解できる。 5. 模擬研修（健康教育指導）を通して、教授－学修過程について理解できる。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護教育の目的	看護教育学とは何か：看護教育における目的と特徴、看護教育の学習者の特徴、学習者としての動機づけ			講義	渋谷	
2	わが国の看護教育制度の変遷	看護基礎教育カリキュラム改正			講義	渋谷	
3	専門職としての看護教育	看護職の生涯学習とキャリア形成			講義	渋谷	
4	わが国の継続教育制度	生涯学習支援 クリニカルラダーを用いた評価 新人看護研修制度			講義	渋谷	
5～6	学習理論	成人学習理論、経験学習理論、リフレクション			講義 演習	井本	
7～8	学習理論の理解を深める	問題解決学習、プログラム学習、発見学習			講義 演習	井本	
9～10	教授学習に関する諸理論	学習理論のプレゼンテーション 行動主義、認知主義、構成主義			講義 演習	井本	
11～12	教育目標・教育計画・教育評価	教育目標の設定、指導計画の策定、教育評価の方法			講義 演習	井本	
13～14	課題学習	それぞれに課題を設定し、模擬研修（健康教育指導）を企画する（個別ワーク）			演習	井本	
15	課題発表	模擬研修（健康教育指導）の発表（発表・討論、リフレクション）			演習	井本	
授業時間外学習	実施時期に適時、説明する。						
評価方法	発表内容（50%）、講義・討論への参加状況（50%）						
テキスト	なし						

参考文献	毎回、講義資料を配布する。 参考文献はその都度、提示する。
実務経験のある教員	渋谷美香 井本英津子
備 考	
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 基礎看護学	

科目名	助産方法Ⅱ	科目番号	6425	単位	2	時間	60
責任教員	福澤 利江子	必修・選択別	選択	開講学年		4年	
				前・後学期別		前学期	
授業概要	妊娠・分娩・産褥各期ならびに新生児の経過診断と助産過程の展開について理解する。分娩期のケア技術・分娩介助技術および出生直後の新生児観察とケアに必要な技術を修得する。妊娠・分娩・産褥各期にある対象に対する相談・支援活動のための技術とその評価法について学ぶ。						
ディプロマポリシー (DP) との関連	【自己研鑽○】 【主体的学修○】 【倫理的判断○】 【看護実践◎】 【多職種協働○】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥各期ならびに新生児の経過診断の視点と助産過程の展開について理解する。 2. 分娩介助・出生直後新生児観察・ケアに関連する基本的な技術を修得する。 3. 妊娠期・産褥期にある対象に対する指導計画の立案・指導・指導の評価の方法を理解する。 4. 母乳育児支援のための基礎的知識と技術を修得する。 						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容		方 法	担 当 教 員		
1～2	妊娠期の助産過程	妊娠期の助産診断とアセスメント事例による助産過程の展開		演習	福澤 分野教員		
3～6	分娩期の助産過程	分娩期の助産診断とアセスメント事例による助産過程の展開		演習	藤澤、福澤、 分野教員		
7～8	産褥期・新生児期の助産過程	産褥期・新生児期の助産診断とアセスメント事例による助産過程の展開		演習	福澤 分野教員		
9～11	妊娠期の助産診断とケア	妊娠期のフィジカルイグザミネーションとケア 保健指導の実際		演習	福澤 分野教員		
12～13	分娩期の助産診断とケア	分娩期のフィジカルイグザミネーションとケア		演習	藤澤、福澤、 分野教員		
14～20	分娩期の助産診断とケア	分娩介助法、早期母子接触		演習	藤澤、福澤、 分野教員		
21～23	産褥期の助産診断とケア	産褥期のフィジカルイグザミネーションとケア 保健指導の実際		演習	福澤 分野教員		
24	新生児の助産診断とケア	新生児のフィジカルイグザミネーションとケア		演習	福澤 分野教員		
25～28	母乳育児支援	乳房の解剖・生理 母乳育児支援の基礎的知識と技術		講義 演習	福澤		
29～30	異常発生時に関わるケア	肩甲難産時の処置、吸引分娩・鉗子分娩の介補 産科危機的出血時の対処		講義 演習	藤澤、 分野教員		
授業時間外学習	母性看護方法Ⅰ・Ⅱ、助産方法Ⅰ・Ⅲで学んだ知識および技術における学修内容を復習する。 各回授業においてテキストの関連箇所を熟読すること。 実技演習については自己練習を行い技術の修得に努めること。 実施時期に、詳細について説明する。						
評価方法	レポート (40%) (詳細は事前にルーブリックで示す。)、実技試験 (50%) (詳細は事前に評価基準を示す。)、グループワークの参加状況・姿勢 (10%) レポートおよび実技試験は、各評価ともに60%以上を可とする。						
テキスト	我部山キヨ子 (2023) 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ (第6版) 医学書院 ISBN : 978-4-260-04226-0						

	<p>我部山キヨ子 (2023) 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 (第6版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-04208-6</p> <p>我部山キヨ子 (2023) 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 (第6版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-04210-9</p> <p>石井邦子 (2023) 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 (第6版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-04219-2</p> <p>日本産婦人科学会 (2020) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産科婦人科学会 ISBN: 978-4907890186</p> <p>細野茂春 (2021) 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社 ISBN: 978-4758319980</p> <p>平澤美恵子 (2021) 新訂版写真でわかる助産技術アドバンス インターメディカ ISBN: 978-4-89996-436-0</p> <p>日本助産診断実践研究会 (2021) 実践マタニティ診断 (第5版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-04583-4</p>	
参考文献	<p>武谷雄二 (2014) プリンシプル産科婦人科学 1 (第3版) メジカルビュー社 ISBN: 978-4-7583-1219-6</p> <p>武谷雄二 (2014) プリンシプル産科婦人科学 2 (第3版) メジカルビュー社 ISBN: 978-4-7583-1220-2</p> <p>仁志田博司 (2018) 新生児学入門 (第5版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-03625-2</p> <p>日本助産学会ガイドライン委員会 (2020) エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020 日本助産師会出版</p> <p>藤森敬也 (2021) 胎児心拍数モニタリング講座: 大事なサインを見逃さない (改訂4版) メディカ出版 ISBN: 978-4-8404-7822-9</p> <p>我部山キヨ子 (2018) アセスメント力を磨く 助産師のためのフィジカルエグザミネーション (第2版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-03548-4</p> <p>水野克己 (2017) 母乳育児支援講座 (第2版) 南山堂 ISBN: 978-4-525-50332-1</p> <p>日本ラクテーション・コンサルタント協会 (2021) 母子育児支援スタンダード (第2版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-02070-1</p> <p>日本ラクテーション・コンサルタント協会 (2020) 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース (第1版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-00790-0</p> <p>日本ラクテーション・コンサルタント協会 (2011) 母乳育児支援ガイド アドバンス・コース (第1版) 医学書院 ISBN: 978-4-260-01212-6</p> <p>北川真理子 (2019) 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 (改訂第4版) 南江堂 ISBN: 978-4-524-24625-0</p> <p>木村好秀 (2017) 家族計画指導の実際 (第2版増補版) 少子社会における家族形成への支援 医学書院 ISBN: 978-4-260-03048-9</p> <p>鈴木由美 (2013) マタニティサイクルの実践保健指導 [妊娠期] 丸善出版 ISBN: 978-4-86345-165-0</p> <p>鈴木由美 (2013) マタニティサイクルの実践保健指導 [産褥期] 丸善出版 ISBN: 978-4-86345-166-7</p>	
	実務経験のある教員	福澤利江子、藤澤紀子、藤井あゆみ
	備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポートの評価のうち 60%に満たない場合は、再提出を願い出ることができる。ただし、再提出は1度のみとし、別途指示された内容について修正すること。 2. 実技試験の評価のうち 60%に満たない場合は、再試験を願い出ることができる。ただし、申し出によって受ける再試験は1度のみとし、別途指示された方法で受験すること。 3. 助産実習の先行履修要件科目である。

	4. 履修前に提示する事前課題をもとに演習を進めるため、各自課題に取り組んだ上で臨むこと。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（助産師養成） 助産診断・技術学	

科目名	助産業務管理	科目番号	6427	単位	1	時間	15
責任教員	福澤 利江子	必修・選択別	選択	開講学年		4年	
				前・後学期別		前学期	
授業概要	助産業務とその管理に必要な法的義務・責任、助産業務管理の原則と方法を学ぶ。また、助産施設における管理、運営および産科医療事故の現状とリスクマネジメントについて学ぶ。						
ディプロマ リ- (DP) との関連	【自己研鑽○】 【主体的学修○】 【倫理的判断○】 【多職種協働○】 【地域の人々との協働○】						
学修目標	1. 助産業務にかかわる法と義務・責任を理解する。 2. 助産所における助産業務管理と運営の基本を理解する。 3. 病院における助産業務管理と運営の基本を理解する。 4. 助産師が行う医療安全と危機管理を理解する。						
回数	授 業 計 画						
	課 題	内 容			方 法	担当教員	
1	助産管理の基本と助産業務管理	助産管理の概念			講義	福澤	
2	助産業務にかかわる法と義務・責任	助産師の業務にかかわる関係法規 助産師の法的責任と義務			講義	福澤	
3～4	助産所における助産業務管理と運営	嘱託医及び嘱託医療機関との連携・協働 救急時の搬送と搬送基準／地域医療と行政との連携・協働／助産所での分娩の適応基準・自宅分娩の適応と可否判断			講義	時間講師	
5	周産期管理システム	周産期医療のシステム化と連携の構築 周産期医療システム化での助産師活動			講義	時間講師	
6	病院における助産業務管理と運営	周産期医療における連携・協働／周産期病棟の管理／外来の管理／院内助産、助産外来の管理			講義	時間講師	
7～8	助産師が行う医療安全と危機管理	安全対策／医療事故防止対策 助産業務における医療安全と危機管理			講義	時間講師、 福澤	
授業時間外学習	学修課題に該当する箇所についてテキストを熟読し授業に臨む。 授業後は、講義内容を復習し理解を深めること。						
評価方法	筆記試験（100％）						
テキスト	我部山キヨ子（2023） 助産学講座 10 助産管理（第6版） 医学書院 ISBN：978-4-260-04709-8						
参考文献	成田伸（2023） 助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 ISBN：978-4-8180-2553-0						
	福井トシ子（2022） 新版 助産師業務要覧（第3版） [I基礎編] 日本看護協会出版 ISBN：978-4-8180-2558-5						
実務経験のある教員	福澤利江子						
備 考	筆記試験で60％に満たない場合は、再試験を願い出ることができる。ただし、申し出によって受けることのできる再試験は1度のみとし、別途指示された方法で受験すること。 助産実習の先行履修要件科目である。						

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表 2 (助産師課程) 助産管理

科目名	助産実習	科目番号	6510	単位	10	時間	450
責任教員	◎福澤 利江子 古川 亮子	必修・選択別	選択	開講学年		3・4年	
				前・後学期別		後学期	
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児に対する基本的な助産診断能力およびケア実践能力を養う。特に、妊娠期・分娩期・産褥期と継続的にかかわり、子どもを産み育てる女性とその家族が必要としている個別で多様な健康上のニーズに対する援助を行う。これらの実践を通して助産師の役割と責任を学ぶ。						
ディプロマ [®] ・リシ [®] (DP)との関連	【主体的学修◎】 【倫理的判断◎】 【看護実践◎】 【多職種協働◎】 【地域の人々との協働◎】						
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過とその適応状態を診断し順調な経過をたどるための援助ができる。妊婦とその家族が出産・育児にむけた準備を整えるための援助ができる。 2. 産婦の分娩進行を診断・予測し、母子の安全・安楽を考慮した援助ができる。産婦が分娩の進行に適応し、主体的な取り組みが維持され、満足感が得られる様に母子および家族に援助ができる。 3. 新生児を迎えた褥婦および家族が新しい生活に適応できるように環境や条件を整え、セルフケアに向けて援助することができる。 4. 高次周産期医療施設の機能と役割について理解し、そこに入院する妊産褥婦・新生児の特性と看護を学ぶ。継続看護やチーム医療の中で看護の位置づけや役割を考察する。 5. 助産師の活動の場としての助産所とその役割について学ぶ。 6. 学習者として誠実かつ責任ある行動をとることができる。 						
実習計画 ・ 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3年次後学期 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設のシステムの概要と看護者の役割に関する臨床講義を受ける。 2) 高次周産期医療施設の産科病棟・新生児病棟（NICU）・外来の施設見学を行う。 2. 4年次後学期 <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ毎に配置された病院施設、助産所で実習を行う。 2) 周産期にある妊産褥婦を受持ち、正常分娩の介助を含む母子へ援助を行う。 3) 助産所における保健指導や育児相談など助産実践の見学を行う。 <p>詳細は、実習要項に示す。</p>						
授業時間外学習	知識・技術の両面において既習の学修内容を復習して実習に臨むこと。 提示された課題に関するレポートの作成を行うこと。						
評価方法	実習内容・実習目標到達状況・実習記録・実習への取り組み姿勢や態度から総合的に評価する。（詳細は、実習要項、実習評価表に示す。） 実習記録提出遅延は減点の対象となる。						
実習施設	3年後学期：長野県立こども病院総合周産期センター 4年後学期：伊那中央病院 諏訪赤十字病院 丸の内病院 上伊那地区近隣助産所						
実務経験のある教員	福澤利江子、古川亮子、藤澤紀子、藤井あゆみ						
備考	<p><助産実習の先修要件>学生便覧「助産師コースの履修」参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4年生後学期の履修は、助産師コースの全講義科目の単位取得していることが条件となる。 2. 実習オリエンテーションには必ず出席すること。 3. 分娩介助実習は目標の達成状況に応じ実習期間が延長することがある。 						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表2（助産師課程） 助産学実習							



長野県看護大学 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694
電話 0265-81-5100
FAX 0265-81-1256
E-mail kyomu-gakusei@pref.nagano.lg.jp
URL <http://www.nagano-nurs.ac.jp/>